

或恋愛小説

——或は「恋愛は至上なり」——

芥川龍之介

青空文庫

ある婦人雑誌社の面会室。

主筆　でっぷり肥ふとった四十前後の紳士しんし。

ほりかわやすきち

堀川保吉

主筆の肥ふとっているだけに瘦やせた上にも瘦せて見

える三十前後の、——ちよつと一口には形容出来ない。が、とにかく紳士と呼ぶのに躡ちゆうちよ躡ちよすることだけは事実である。

主筆　今度は一つうちの雑誌に小説を書いては頂けないでしょうか？　どうもこの頃は読者も高級になっていますし、在来の恋愛小説には満足しないようになっていきますから、……もつと深い人間性に根まざした、真面目まじめな恋愛小説を書いて頂きたいのです。

保吉　それは書きますよ。実はこの頃婦人雑誌に書きたいと思

っている小説があるのです。

主筆　そうですか？　それは結構です。もし書いて頂ければ、大いに新聞に広告しますよ。「堀川氏の筆に成れる、哀婉あいえんきわま極きまりなき恋愛小説」とか何とか広告しますよ。

保吉　「哀婉極きまりなき」？　しかし僕の小説は「恋愛は至上しじょうなり」と云うのですよ。

主筆　すると恋愛の讚美さんびですね。それはいよいよ結構です。厨くりやがわはかせ

川博士の「近代恋愛論」以来、一般に青年男女の心は恋愛至上主義に傾いていますから。……勿論近代的恋愛でしようね？

保吉　さあ、それは疑問ですね。近代的懷疑かいぎとか、近代的盜賊とか、近代的白髮染めしらがぞとか——そう云うものは確かに存在するで

しよう。しかしどうも恋愛だけはイザナギイザナミの昔以来余り変らないように思いますが。

主筆 それは理論の上だけですよ。たとえば三角関係などは近代的恋愛の一例ですからね。少くとも日本の現状では。

保吉 ああ、三角関係ですか？ それは僕の小説にも三角関係は出て来るのです。……ざつと筋を話して見ましようか？

主筆 そうして頂ければ好都合こうつごうです。

保吉 女主人じょしゅじんこう公こうは若い奥さんなのです。外交官の夫人なのです。勿論東京の山やまの手ての邸宅ていたくに住んでいるのですね。背せいのす
らりとした、ものごしの優しい、いつも髪は——一体読者の要求
するのはどう云う髪ゆに結ゆった女主人公ですか？

主筆 耳みみかく隠しでしよう。

保吉 じゃ耳隠しにしましょう。いつも髪を耳隠しに結った、色の白い、目の冴さえ冴ざえしたちよつと唇くちびるに癖のある、——まあ活動写真にすれば栗島澄子の役やくどころ所なのです。夫の外交官も新時代の法学士ですから、新派悲劇じみたわからずやじやありません。学生時代にはベエスボールの選手だった、その上道楽に小説くらいは見る、色の浅黒い好男子なのです。新婚の二人は幸福に山の手の邸宅に暮している。一しよに音楽会へ出かけることもある。銀座通りを散歩することもある。……………

主筆 勿論震しんさい災前さいでしようね？

保吉 ええ、震災のずっと前です。……………一しよに音楽会へ出か

けることもある。銀座通りを散歩することもある。あるいはまた西洋間の電燈の下に無言の微笑ばかり交わすこともある。女主人公はこの西洋間を「わたしたちの巢」と名づけている。壁にはルノアルやセザンヌの複製などもかかっている。ピアノも黒い胴を光らせている。鉢植えの椰子も葉を垂らしている。——と云うと多少気が利いていますが、家賃は案外安いのですよ。

主筆　そう云う説明は入らないでしょう。少くとも小説の本文には。

保吉　いや、必要ですよ。若い外交官の月給などは高の知れたものですかからね。

主筆　じゃ華族の息子におしなさい。もつとも華族ならば伯爵

か子爵ですね。どう云うものか公爵や侯爵は余り小説には出て来ないようです。

保吉 それは伯爵の息子でもかまいません。とにかく西洋間さえあれば好いのです。その西洋間か、銀座通りか、音楽会かを第一回にするのですから。……しかし妙子たえこは——これは女主人じょしゆじんこ公こうの名前ですよ。——音楽家の達雄たつおと懇意こんいになった以後、次第にある不安を感じ出すのです。達雄は妙子を愛している、——その女主人公は直覚するのですね。のみならずこの不安は一日ましにだんだん高まるばかりなのです。

主筆 達雄はどう云う男なのですか？

保吉 達雄は音楽の天才です。ロオランの書いたジャン・クリ

ストフとワツセルマンの書いたダニエル・ノオトハフトとをいちが一丸んにしたような天才です。が、まだ貧乏だったり何かするため誰にも認められていないのですがね。これは僕の友人の音楽家をモデルにするつもりです。もっとも僕の友人は美男びなんですが、達雄は美男じゃありません。顔は一見ゴリラに似た、東北生れの野や蛮人ばんじんなのです。しかし目だけは天才らしい閃ひらめきを持っているのですよ。彼の目は一いっかい塊くわいの炭火すみびのように不断の熱を孕はらんでいる。——そう云う目をしているのですよ。

主筆 天才はきつと受けましよう。

保吉 しかし妙子は外交官の夫に不足のある訣わけではないのです。いや、むしろ前よりも熱烈に夫を愛しているのです。夫もまた妙

子を信じている。これは云うまでもないことでしょう。そのために妙子の苦しみは一層つのるばかりなのです。

主筆　つまりわたしの近代的と云うのはそう云う恋愛のことですよ。

保吉　達雄はまた毎日電燈さえつけば、必ず西洋間へ顔を出すのです。それも夫のいる時ならばまだしも苦勞はないのですが、妙子のひとり留守るすをしている時にもやはり顔を出すのでしよう。妙子はやむを得ずそう云う時にはピアノばかり弾ひかせるのです。もつとも夫のいる時でも、達雄はたいていピアノの前へ坐らないことはないのですが。

主筆　そのうちに恋愛に陥るのですか？

保吉 いや、容易に陥らないのです。しかしある二月の晩、達雄は急にシウベルトの「シルヴィアに寄する歌」を弾きはじめるのです。あの流れる炎ほのおのように情熱の籠こもった歌ですね。妙子は大きい椰子やしの葉の下にじっと耳を傾けている。そのうちにだんだん達雄に対する彼女の愛を感じはじめ。同時にまた目の前へ浮かび上った金こんじき色の誘惑を感じはじめ。もう五分、——いや、もう一分たちさえすれば、妙子は達雄の腕かひなの中へ体を投げていたかも知れません。そこへ——ちようどその曲の終りかかったところへ幸い主人が帰って来るのです。

主筆 それから？

保吉 それから一週間ばかりたった後のち、妙子はとうとう苦しさ

に堪え兼ね、自殺をしようと決心するのです。が、ちようど妊にんし娠んしているために、それを断行する勇氣がありません。そこで達雄に愛されていることをすつかり夫に打ち明けるのです。もつとも夫を苦しめないように、彼女も達雄を愛していることだけは告白せぬにしまうのですが。

主筆　それから決闘にでもなるのですか？

保吉　いや、ただ夫は達雄の来た時に冷かに訪問を謝絶しゃぜつする

のです。達雄は黙然もくねんと唇くちびるを噛くんだまま、ピアノばかり見つめて

いる。妙子は戸の外たたずに佇たんだなりじつと忍び泣きをこらえている。

——その後のちふたつき二月とたたないうちに、突然官命を受けた夫は支那しなの漢口ハンカオの領事館へ赴任ふにんすることになるのです。

主筆 妙子も一しよに行くのですか？

保吉 勿論一しよに行くのです。しかし妙子は立つ前に達雄へ手紙をやるのです。「あなたの心には同情する。が、わたしにはどうすることも出来ない。お互に運命だとあきらめましょう。」——大体そう云う意味ですがね。それ以来妙子は今日までずっと達雄に会わないのです。

主筆 じゃ小説はそれぎりですね。

保吉 いや、もう少し残っているのです。妙子は漢ハンカオ口へ行つた後のちも、時々達雄を思い出すのですね。のみならずしまいには夫よりも実は達雄を愛していたと考えるようになるのですね。好いいですか？ 妙子を囲んでいるのは寂しい漢ハンカオ口の風景ですよ。あ

の唐とうの崔顥さいこうの詩に「晴川せいせん歴歴れきれき漢陽かんよう樹じゆ 芳草ほうそう萋萋せいせい鸚おうむ

鷓洲しゆう」と歌われたことのある風景ですよ。妙子はとうとうもう

一度、——一年ばかりたった後のちですが、——達雄へ手紙をやるの

です。「わたしはあなたを愛していた。今でもあなたを愛してい

る。どうか自ら欺みづかいていたわたしを可哀かわいそうに思つて下さい。」

——そう云う意味の手紙をやるのです。その手紙を受けとつた達

雄は……

主筆さつそく 早速支那へ出かけるのでしよう。

保吉 とうていそんなことは出来ません。何しろ達雄は飯を食

うために、浅草あさくさのある活動写真館のピアノを弾ひいているのです

から。

主筆 それは少し殺風景ですね。

保吉 殺風景でも仕かたはありません。達雄は場末ばすえのカフェのテエブルに妙子の手紙の封を切るのです。窓の外の空は雨になっている。達雄は放心したようにじつと手紙を見つめている。何だかその行ぎようの間に妙子の西洋間せいようまが見えるような気がする。ピアノの蓋ふたに電燈の映った「わたしたちの巣」が見えるような気がする。

……

主筆 ちょっともの足りない気もしますが、とにかく近来の傑作ですよ。ぜひそれを書いて下さい。

保吉 実はもう少しあるのですが。

主筆 おや、まだおしまいじゃないのですか？

保吉 ええ、そのうちに達雄は笑い出すのです。と思うとまたいま思い出まじそうに「畜ちく生しょう」などと怒鳴り出すのです。

主筆 ははあ、発狂したのですね。

保吉 何、莫迦ばか莫迦ばかしさに業ごうを煮にやしたのです。それは業を煮やすはずでしょう。元来達雄は妙子などを少しも愛したことはないのですから。……

主筆 しかしそれじゃ。……

保吉 達雄はただ妙子の家うちへピアノを弾きたさに行つたのですよ。云わばピアノを愛しただけなのですよ。何しろ貧しい達雄にはピアノを買う金などはないはずですからね。

主筆 ですがね、堀川さん。

保吉　しかし活動写真館のピアノでも弾いていられた頃はまだしも達雄には幸福だったのです。達雄はこの間の震災以来、巡査になつて居るのですよ。護憲運動のあつた時などは善良なる東京市民のために袋ふくろ叩たたきにされて居るのですよ。ただ山の手の巡回中、稀まれにピアノの音ねでもすると、その家の外たに佇たたずんだまま、はかない幸福を夢みて居るのですよ。

主筆　それじゃ折角せつかくの小説は……

保吉　まあ、お聞きなさい。妙子はその間も漢口ハンカオの住いに不あ相あ変あ達雄を思つて居るのです。いや漢口ハンカオばかりじゃありません。外交官の夫の転任する度に、上海シャンハイだの北京ペキンだの天津テンシンだのへ一時の住いを移しながら、不あ相あ変あ達雄を思つて居るのです。

勿論もう震災の頃には大勢おおぜいの子もちになつて居るのですよ。えと、——年児としごに双児ふたごを生んだものですから、四人の子もちになつて居るのですよ。おまけにまた夫はいつのまにか大酒飲みになつて居るのですよ。それでも豚ぶたのように肥ふとつた妙子はほんとうに彼女と愛し合つたものは達雄だけだつたと思つて居るのですね。恋愛は實際至上なりですね。さもなければどうてい妙子のように幸福になれるはずはありません。少くとも人生のぬかるみを憎にくまずにいることは出来ないでしょう。——どうです、こう云う小説は？

主筆 堀川さん。あなたは一体真面目まじめなのですか？

保吉 ええ、勿論真面目です。世間の恋愛小説を御覧なさい。

女主人じよしゅじんこう公はマリアでなければクレオパトラじゃありませんか？　しかし人生の女主人公は必ずしも貞女じゃないと同時に、必ずしもまた姪婦いんぷでもないのです。もし人の好いい読者の中にうち、一人でもああ云う小説を真まに受ける男女があつて御覧なさい。もつとも恋愛の円満えんまんに成じようじゆ就じゆした場合は別問題ですが、万一失恋でもつと莫迦莫迦ばかばかしい復讐的精神を發揮しますよ。しかもそれを当事者自身は何か英雄的行為のようになぬ惚ぼれ切つてするのですからね。けれどもわたしの恋愛小説には少しもそう云う悪影響を普さんび及する傾向はありません。おまけに結末は女主人公の幸福を讃美さんびしているのです。

主筆 常談じょうだん でしょう。……とにかくうちの雑誌にはとうて

いそれは載せられません。

保吉 そうですか？ じゃどこかほかへ載せて貰います。広い世の中には一つくらい、わたしの主張を容いれてくれる婦人雑誌もあるはずですから。

保吉の予想の誤らなかつた証拠はこの対話のここに載つたことである。

(大正十三年三月)

青空文庫情報

底本：「芥川龍之介全集5」ちくま文庫、筑摩書房

1987（昭和62）年2月24日第1刷発行

1995（平成7）年4月10日第6刷発行

底本の親本：「筑摩全集類聚版芥川龍之介全集」筑摩書房

1971（昭和46）年3月～1971（昭和46）年11月

入力：j.utiyama

校正：かとうかおり

1999年1月8日公開

2004年3月10日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

或恋愛小説

——或は「恋愛は至上なり」——

2020年 7月12日 初版

奥 付

発行 青空文庫

著者 芥川龍之介

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>